

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①個の実態に応じた支援を工夫しながら、課題や身に付けさせたい資質や能力を明確にし、授業に取り組み、主体的・対話的な深い学びを通して、言語活動の充実と授業の質的な向上を図る。②少人数やTT指導、一部教科分担任制などで、きめ細やかな指導をすることで、基礎的な学習事項の習熟と定着を図るようとする。	①校内の重点授業では、身に付けたい力を明確にした単元構想、言語活動の設定、子どもにとって必要感のある学習にするための工夫に取り組み、言語活動の充実と授業の質的な向上に努めた。②算数の少人数や、3年生以上の教科分担任制授業を実施し、きめ細やかな授業や教材研究ができた。学年間で児童の実態を把握できた。	B
豊かな心	①全学年、全職員であいさつ運動に取り組み良好な人間関係の基礎を身につけられるようにする。②たてわり活動やペア活動等現状に合わせた交流の形を考え、自他の良さを認め合う心情や態度を育てる。	①児童会・委員会のあいさつ活動は行われているが、児童からのあいさつは十分とは言えない。自発的な活動を期待したい。②活動回数が十分ではなかった。たてわり班やペア学年などで、顔と名前の一一致する活動にしていけるために、相手との関係性をより意識できるようにしていきたい。	B
健やかな体	①週1回のロングタイム昼休みの時間を積極的に活用し、外遊びを勧めるとともに、学校全体で手洗い、うがい、歯みがきの取組を励行し、健やかな体の基礎をつくる。②保護者の理解のもと、「早寝・早起・朝ごはん」を推進するとともに、体力向上一校一実践運動として「外遊び集会」を通して、体力の向上を図る。	①週1回のロングタイム昼休みなど、休み時間以外遊びを行う児童が増えてきていた。しかし、ルールを守りながら遊びを行うことには、まだ課題があり、今後も取組を続けていく。②日常的に感染症を予防するためにこまめな手洗いを意識し、規則正しい生活習慣を身に付けていくことの大切さについて今後も指導を続けていく。	B
地域連携・学校運営協議会	①地域防災拠点訓練など、地域の活動と行事に進んで参加し、地域の材に関わりながら、活用の方法を探していく。②地域サポーターの方々や学校運営協議会との連携を図り、その声を学校評価として取り入れ、今後の学校経営に積極的に生かしていく。	①地域防災拠点訓練など、地域の活動と行事に進んで参加し、地域の材に関わりながら、活用の方法を探していく。②地域サポーターの方々や学校運営協議会との連携を図り、その声を学校評価として取り入れ、今後の学校経営に積極的に生かしていく。	A
児童指導	①学校スタンダードの実践や高学年における一部教科分担任制の導入等、全教職員が全児童に関わる環境を整え、継続的で統一されたきめ細かい指導を行うとともに、情報の共有を行う。②年2回実施する生活アンケートや横浜プログラムの実践・職員研修を通して児童指導の充実を図る。	①職員間でのスタンダードのとらえが十分でなかったため、見直しを図った。共通理解のもと、進めていきたい。教科分担任制や情報共有はよくできていた。今後も継続していく。②アンケートなどの結果をもとに、教職員間での情報共有を密にし、適切な支援に努めてきた。	B
特別支援教育	①一般級と個別支援級の連絡・連携をさらに密にするとともに、特別な支援を必要とする児童の理解を進める。②児童一人ひとりの課題や特性にしっかりと向き合い、定期的なコンサルテーションや環境調整、SCやSSWとの連携、ケース会議等の実施を通して、支援の充実を図る。	①職員体制は十分とは言えない。学習計画、交流計画など、より連絡を取り合っていく必要がある。②支援の充実にはいるが、必要としているすべての児童・家庭に、十分な支援の手が届いているとは言えない。今後、支援の方向性を考えていく必要がある。	B
いじめへの対応	①定期的に研修を実施するとともに、年2回行うアンケートを活用し、教職員がいじめ等の危機へのアンテナを高く張り、小さな変化や異変に気づき、早期に報告・連絡・相談・対応を行う。また、未然防止・再発防止に努める。②月1回定期的に委員会を開き、いじめ防止基本方針を全職員で共通理解し、見直しを行い未然防止に努める。	①アンケート結果をもとに情報共有し、早期発見に努めた。今後も未然防止・再発防止に努めていく。②基本方針の共通理解のもと、これからも未然防止に努めていく。	B
教育環境	①学校教育ボランティアの協力を得ながら、児童が安全に楽しく活動できるようにする。②年間計画を立て、学校図書館やICT機器を活用した授業を意図的・計画的に行うようにする。子どもたちが自ら学校図書館やICT機器を効果的に活用することで、問題を解決する力を高め、主体的な学びにつながるようとする。	①学校教育ボランティアや支援員の協力があり、児童が安全に活動や学習ができるための必要な支援が得られた。②安心して学校図書館やタブレット学習ができるように、学校司書やICT支援員との連携を図ることで、学校図書館やICT機器を効果的に活用できた。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心としてメンターチームを組織し、授業研や月1回の研修を通して、授業力の向上に努める。②週1回、主幹会議を行い、主幹教諭が長期的に学校運営を見通していける力を高める場を設定する。③グループウェアを活用し情報共有を進めるとともに、電子申請システムを導入し事務の効率化を図っていく。	①メンターチームでは、主体的、対話的な学びが効果的にできるような単元構想や授業の流れを意識した研修や授業研究を行った。また、ミドルリーダーの指導助言も授業に生かした。②グループウェアの活用により、情報共有が迅速になった。今後、さらに事務の効率化を図りたい。	B
ブロック内評価後の気づき	今年度は、中学生が小学校で行っている職業体験や、小中児童生徒交流日での6年生の部活動体験など、小中ブロックの交流が実施できた。子どもたちが交流を深めることができた。また、児童支援専任会や小中七校実務者連絡会などを通して、情報共有してきた。七校実務者連絡会では、来年度の小中交流日の確認やブロックで共通して目指す方向性を確認した。今後もよりよいコミュニケーションを図ることができ学習や活動の場を大切にしたいと考える。		
学校関係者評価	学習では、感染症対策をしながら、できる限り学び合いができるように単元構想や授業の流れ、場の設定を工夫した。ICTの活用も積極的に取り入れ、画像を表示しながらのプレゼンテーションや、必要な情報を集め、選択し、限られた文字数の中で、文章を分かりやすくまとめる授業展開が行われた。必要感のある話し合いについては、引き続き研究が必要である。少人数やTT指導、教科担任制を取り入れることで、多面的に子どもを見て情報を共有し、きめ細かい指導をすることができた。		

中期取組目標振り返り	今年度は、子どもたちのかがやく笑顔を育むために、重なり、つなげ表現する「チーム屏風浦」を目標として取り組んできた。朝会で自分の思いを発表する「笑顔プロジェクト」や、つながりと交流のある運動会など、一人ひとりがチャレンジ精神をもち、活動することを通して、自己有用感を高めることができた。また、学習の目的を明確にした言語活動を取り入れた国語科学習の研究を通して、「わかる・できる・楽しい」授業を工夫し、実践を積んできた。主幹教諭を中心とした、教職員のチーム連携は、よいものがあるが、屏風浦小から、教師としてスタートする方が増える中、指導力向上など、今後は人材育成にも力を入れて行く必要がある。
------------	--

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①個の実態に応じた支援を工夫しながら、課題や身に付けさせたい資質や能力を明確にし、授業に取り組み、主体的・対話的な深い学びを通して、言語活動の充実と授業の質的な向上を図る。②少人数やTT指導、一部教科分担任制などで、きめ細やかな指導をすることで、基礎的な学習事項の習熟と定着を図るようとする。		
豊かな心	①全学年、全職員でのあいさつ運動に継続的に取り組み、良好な人間関係の基礎を身につけられるようにする。②全校でのたてわり活動に加え、ペア学年での活動を積極的に取り入れ、現状に合わせた交流の形を考えながら、自他の良さを認め合う心情や態度を育てる。		
健やかな体	①週1回のロングタイム昼休みの時間を積極的に活用し、ルールを守りながらの外遊びを勧めていく。②学校保健委員会等では、タブレットやゲーム機器の使用率について問題提起を行い、日常の使用方法を指導するとともに、外で体を動かすことの重要性を伝えていく。		
地域連携・学校運営協議会	①地域防災拠点訓練など、地域の活動と行事に進んで参加し、地域の材に関わりながら、活用の方法を探していく。②地域サポーターの方々や学校運営協議会との連携を図り、その声を学校評価として取り入れ、今後の学校経営に積極的に生かしていく。		
児童指導	①学校スタンダードの実践や高学年における一部教科分担任制の導入等、全教職員が全児童に関わる環境を整え、継続的で統一されたきめ細かい指導を行うとともに、情報の共有を行う。②年複数回実施するアンケートや横浜プログラムの実践・職員研修を通して、児童指導の充実を図る。		
特別支援教育	①一般級と個別支援級との連絡・連携をさらに密にするとともに、特別な支援を必要とする児童の理解を進める。②児童一人ひとりの課題や特性にしっかりと向き合い、定期的なコンサルテーションや環境調整、SCやSSWとの連携、ケース会議等の実施を通して、支援の充実を図る。		
いじめへの対応	①定期的に研修を実施するとともに、年複数回行うアンケートを活用し、教職員がいじめ等の危機へのアンテナを高く張り、小さな変化や異変に気づき、早期に報告・連絡・相談・対応を行う。また、未然防止・再発防止に努める。②月1回定期的に委員会を開き、いじめ防止基本方針を全職員で共通理解し、見直しを行い未然防止に努める。		
教育環境	①学校教育ボランティアや支援員の協力を得ながら、児童が安全に楽しく活動できるようにする。②学校図書館やICT機器を活用した授業を学校司書やICT支援員と意図的・計画的に行うようにする。目的に応じて子どもたちが自ら学校図書館やICT機器を効果的に活用することで、主体的な学びにつながるようとする。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心としてメンターチームを組織し、授業研や月1回の研修を通して、授業力の向上に努める。②月2回、主幹会議を行い、主幹教諭が長期的に学校運営を見通していける力を高める場を設定する。③グループウェアを活用し情報共有を進めるとともに、文書等の電子化・アンケート等のデジタル化を進め、事務の効率化を図っていく。		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
地域連携・学校運営協議会	c4		
児童指導	c5		
特別支援教育	c6		
いじめへの対応	c7		
	c8		
教育環境	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--